



# おおぞら

コミュニティ・スクール  
長井市立致芳小学校だより  
令和5年 6月14日 NO.5  
校是「和致芳」

みんながなかよく高め合って、たくましく輝く致芳校をつくろう  
「一人一人が自己の成長を実感し、笑顔になる学校へ」  
～できた！わかった！うれしい！授業の創造～

## 仙台・松島への修学旅行で主体的に学ぶ 班別自主研修も復活、被災地での願いも受け止めて

6月8日(木)～9日(金)、6年生が仙台・松島方面への修学旅行に行ってきました。令和2年は、9月に延期して実施、令和3年は10月に延期し、見学先は県内にしました。昨年の行き先は仙台・松島と県外に戻したものの、人との交流を避け、班別研修は行えませんでした。今年度は4年ぶりにコロナ禍以前と同様に班別の自主研修も行うことができました。八木山動物園グループ、ユアテックスタジアムグループ(サッカー会場)、FabLab 仙台&東北自然標本館グループの3つの班に分かれました。地下鉄に乗って自分たちで移動して見学し、昼食も食べて青葉山駅集合です。移動方法や見学先の情報を事前に調べ、実際に自分の目で確かめ、体験しました。こういった直接交流を行って学ぶ修学旅行



行がやっとできるようになりました。本当に嬉しいことです。初めての地下鉄、初めての切符購入、迷って道を尋ねるのも初めてだったことでしょう。失敗から学ぶことも多く、体験を通したからこそわかる本物の学びであると思います。もう一つ県外でなければできないのは東日本大震災についての学習です。松島にも津波は来ましたが、たく

さんの島々が自然の防潮堤となって被害は小さくてすみました。一方、東松島は松島とは近くてもその被害の大きさは全く違っていました。現地で東松島市の消防団の齋藤さんからお話を聞きました。当時、消防団員として市民を避難させている最中に、避難先である野蒜小学校の体育館内で津波にのまれてしまったそうです。真っ黒い泥や油が渦を巻く海水の中、わずかに指先に引っかかった手すりを必死につかんで助かったそうです。震災遺構として残した野蒜駅、海側には



何も無い土地が広がり、高い防潮堤が伸びていました。亡くなった方の名前が刻まれた慰霊碑に全員で黙とうを捧げました。齋藤さんの言葉「私たちが生きている今日は、あの日あの時、あの人たちが生きたかった今日だ。」東日本大震災の被害を忘れないこと、懸命に生きることがいかに大切かという願いをしっかりと受けとめました。

# 「地域の方々との深い連携・協力」で取り組む これがコミュニティ・スクール致芳小学校の姿です

## 今年度 長井市の重点を踏まえた取組

### (1) 確かな学力の向上

- ① 「できた！わかった！うれしい！」授業を心と技術で創り上げる。
- ② 教科担任制の積極的な実施で専門性を活かす。
- ③ ぐんぐんタイムの活用で60分授業やモジュール授業へ。
- ④ ICT 機器の効果的な活用で密を防ぎながら「主体的・対話的で深い学び」を進める。
- ⑤ 地域の専門家や多様な方との学びで、人間性を高める。

### (2) 特別支援教育の推進

- ① 一番困っている子をクラスや学校の真ん中において考える。
- ② 困り感に寄り添う姿勢で全職員が共通理解して対応する。
- ③ UDの考え方で「誰でもわかる・できるようになる」指導と支援。

### (3) スクール・コミュニティの推進

～コミュニティ・スクールが機能する地域と共にある学校づくり～

- ① 小学校・中学校・コミセン・児童センター・学童を地域の未来を育てる一体機関として考え、連携・融合して地域の子供たちを豊かに育てる
- ② 地域力を学校へ、学校からも元気と笑顔を地域へ！
- ③ 学校を地域のプラットフォームへ。人々の交流の場へ

10年後、20年後の地域を支えていくのは、今まさに目の前にいる子供たちです。何を大切に  
するのかを考えたときに、取り組んでいきたいのはこのことです。子供を一人の人権として認め  
ていきます。確かな学力を身につけ、困っている人を一番に考えられるやさしい子供になってほ  
しい、そしてたくさんの交流の中で安心して育つ致芳小学校でありたいと思っています。

長井北中連携あいさつ運動



5年親子行事業山登山



1年親子行事ウオーラリー



交通安全教室



致芳小学校の  
ホームページ・  
ブログでも  
子ども達の  
様子をお知  
らせしてい  
ます。カラ  
ーでご覧  
いただけます。  
こちらの  
QRコード  
からどうぞ。